

	<h1>明日を拓く</h1>	<h2>学校報</h2> <p>平成31年 4月 9日 No. 2 美郷町立美郷中学校</p>
---	----------------	---

### ■始業式「よし、やるぞ」、目標は具体的に！

4月4日の始業式では、3年S. OOさん、2年I. OOOさんが今年にける抱負を発表してくれました。S.さんは主に学習と部活動について、I.さんは主に学習と生活について、「これだけはやるぞ」という絞り込んだ目標を紹介してくれました。堂々とした発表でした。校長が式辞のために準備していたことをしっかり述べてくれました。さすがです。

皆さんも「これだけはやるぞ！」と絞り込んで、必ず達成してほしいものです。そして、できれば、努力することによって向上することを目標にしましょう。



### ■第10期生147名が入学しました。

元気のよい返事でした。小学校でしっかり学んできたという自信と中学校生活への意欲と決意が伝わってきました。「目で話を聴き、返事、挨拶は元気よく」など、もうしっかりとできていました。「美郷中学校の生徒になった今日の、この今の気持ちをしっかりと心に刻んでほしい。楽しく充実した中学校生活となるよう、自分のことは自分です。自分のよさを三つ以上言えるようにする。将来の夢、希望をしっかりとつとめて心掛けてよう。」と期待を託しました。



### ■入学式でお祝いと希望の言葉を贈りました。

司馬遼太郎という歴史小説家が昭和62年(1987年)に、平成元年からの小学校6年生の教科書のために書いた『二十一世紀に生きる君たちへ』という文章の一節を贈りました。

〈前略〉君たちは、いつの時代でもそうであったように、自己を確立せねばならない。

— 自分に厳しく、相手にはやさしく。という自己を。

そして、すなおでかしこい自己を。

二十一世紀においては、特にそのことが重要である。

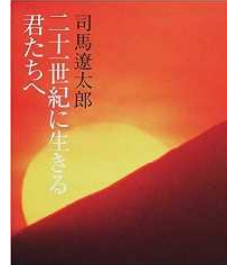
二十一世紀にあっては、科学と技術がもっと発達するだろう。科学・技術が、こう水のように人間をのみこんでしまってはならない。川の水を正しく流すように、君たちのしっかりした自己が、科学と技術を支配し、よい方向へ持って行ってほしいのである。

〈中略〉君たち。君たちはつねに晴れあがった空のように、たかだかとした心を持たねばならない。

同時に、ずっしりとたくましい足どりで、大地をふみしめつつ歩かねばならない。〈後略〉 ※漢字表記は原文のまま

ここには、過去に学んで未来を見通した賢人の希望を託す思いが詰まっています。美郷中の校歌の歌詞「…水のしなやかなかに学びふるさとの明日を拓く」「…おのがじし夢を抱いて和やかな世界を目指す 思いやる心ひとつに」にも通ずるところがあり、本校の先生方はもちろん、生徒の皆さんのご家族、地域の方々、世界中の大人たちの希望がここに 있습니다。どうか、新入生はもとより全校の生徒の皆さん、この願いを受け止めてください。

### ■『二十一世紀に生きる君たちへ』



校長室に〔司馬遼太郎(世界文化社)、ドナルド・キーン監訳、ロバート・ミンツァー訳(英語対訳版:朝日出版社)〕の2冊を置いております。現在は中古本での購入も困難です。

生徒の皆さんには、是非、一読をお薦めします。併載されている「洪庵のたいまつ」も深い感動を与えてくれます。校長室にいつでもどうぞ。お貸しします。わずか40数ページです。

さあ、平成31年度がスタートしました。笑顔、やる気、根気がいっぱい的美郷中生を応援します。一緒に頑張りましょう。♡